

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員  
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病虫害防除所長

平成20年度病虫害発生予報第2号(6月)について

このことについて、病虫害発生予報第2号を発表したので送付します。

### 栽培終了時にはウイルスの媒介虫を撲滅しましょう!

トマトやキュウリ栽培の終了時期が近づいています。

トマト黄化葉巻病、キュウリ黄化えそ病、キュウリ退緑黄化病(仮称)の発生しているほ場でみられるミナミキイロアザミウマやタバココナジラミ類は、これらのウイルス病の媒介虫です。

**栽培終了時は媒介虫撲滅のチャンス**です。ハウスの蒸し込みや薬剤防除を徹底し、媒介虫をハウス外に逃がさないようにしましょう。



トマト黄化葉巻病と外コナジラミ



キュウリ黄化えそ病とミナミキイロアザミウマ



キュウリ退緑黄化病(仮称)と外コナジラミ

#### 防除のポイント

- 薬剤防除の実施
- 罹病株の除去
- ほ場及び周辺雑草の除去
- ハウスの蒸し込みの実施

**地域全体で取り組みましょう!**

## かきのフジコナカイガラムシの防除を徹底しましょう！

フジコナカイガラムシが多発する主な原因は散布むらです。  
本虫は、薬剤がかかり難いへたの隙間等に多く寄生するので、十分な薬量を丁寧に散布することが重要です。

第1世代幼虫出現期の防除が最も効果が高いことから、平坦地では6月1日頃とその約10日後、山間地では6月7～8日頃とその約10日後の2回の防除を徹底して下さい。



フジコナカイガラムシの寄生



被害果

< 予想される向こう1か月の天候 >

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

平年に比べて曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は平年より高いでしょう。降水量は多く、日照時間は少ないでしょう。

週別の気温は、1週目は平年より高く、2週目は低く、3～4週目は平年並か高いでしょう。

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

(福岡管区気象台 20年5月23日発表抜粋)

予報第 2 号

向こう 1 か月間における主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

主な病害虫の発生予報概要

作物名	病害虫名	発生時期 (予想)	発生量 (現況)	発生量 (予想)	
		平年比	平年比	平年比	前年比
水稲	ヒメトビウンカ 縞葉枯病	-	やや少	やや少	やや少
		-	-	やや多	並
かんきつ	黒点病	-	-	やや多	やや多
	そうか病	-	並	やや多	やや多
	ミカンハダニ	-	やや少	やや少	やや少
なし	黒星病	-	やや多	やや多	やや多
ぶどう	べと病	-	-	やや多	やや多
	黒とう病	-	並	やや多	やや多
かき	炭そ病	-	やや少	並	並
	フジコナカイガラムシ	-	並	並	並
いちじく	アザミウマ類	-	並	並	並
果樹共通	カメムシ類	-	並	-	並
茶	炭そ病	-	少	並	並
	もち病	-	少	並	やや多
	カンザワハダニ	-	少	少	少
	チャノコカクモンハマキ	並	少	並	少
	チャノド 北メコバイ	-	多	やや多	やや少
	チャノキイロアザミウマ	-	多	やや多	並
アスパラガス	アザミウマ類	-	並	並	並

注：果樹共通 カメムシ類の発生量（現況）は前年比

## 作物別発生予報

注：予報の根拠の末尾の（ ）書きは、（ + ）は発生を助長する要因、（ - ）は発生を抑制する要因、（ ± ）は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示す。

### 【普通作物 - 水稲】

#### 普通期水稲

##### 1 ヒメトビウンカとイネ縞葉枯病

###### (1) 予報の内容

発生量： 平年よりやや少、前年よりやや少（ヒメトビウンカ）  
平年よりやや多、前年並（イネ縞葉枯病）

###### (2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少ない（ - ）。

ヒメトビウンカの越冬量 雑草地 0頭（平年 3.0頭、前年 4.5頭）  
（片振り20回すくい取り） 小麦ほ場 8.8頭（平年 37.2頭、前年 16.4頭）

イ ヒメトビウンカ（越冬世代）のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は6.4%（平年 2.8%、前年 4.1%）で、過去10か年の中で最も高かった（詳細は平成20年度病害虫発生予報第1号参照）（ + ）。

###### (3) 防除上の注意

ア イネ縞葉枯病の常発地や保毒虫率が高い地域では、移植前に感染防止効果の高い育苗箱施薬剤を施用する。

イ 箱施薬剤の処理時には、農薬使用基準（投下薬量）を厳守し、育苗箱全面に散布むらがないようにする。散布後はイネへのすみやかな吸収を促すため、かん水を行う。

ウ イネ縞葉枯病の発病株を認めたら直ちに除去する。

エ ほ場外で育苗箱に農薬を散布するときは、育苗箱の下にビニールシート等を敷き地面への薬剤の浸透防止に努める。

### 【果樹】

##### 1 かんきつ黒点病

###### (1) 予報の内容

発生量： 平年・前年よりやや多

###### (2) 予報の根拠

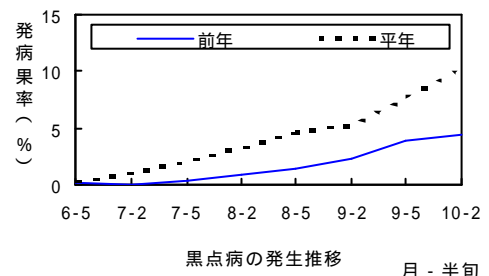
ア 裏年のため軽い剪定の園が多く、伝染源である枯枝の発生が前年より多くなると考えられる（ + ）。

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年より多いとされている（ + ）。

###### (3) 防除上の注意

ア 伝染源となる枯れ枝と剪定枝は除去し、園外に持ち出し処分する。

イ 薬剤防除は、前回の散布から積算降水量250mmを散布間隔の目安に防除を実施する。



##### 2 かんきつそうか病

###### (1) 予報の内容

発生量： 平年・前年よりやや多

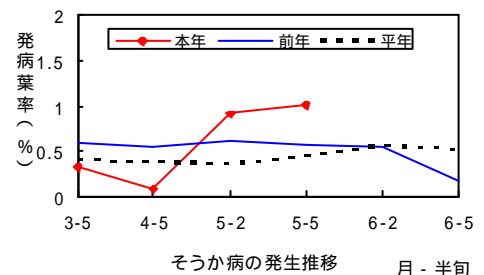
###### (2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年並である（ ± ）。

発病葉率 1.0%（平年 0.4%、前年 0.6%）

発生ほ場率 37.5%（平年 34.7%、前年 58.8%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年より多いとされている（ + ）。



(3) 防除上の注意

罹病葉が多いと果実への感染量が多くなるので、罹病葉を除去し幼果期の防除を徹底する。

3 かんきつのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少

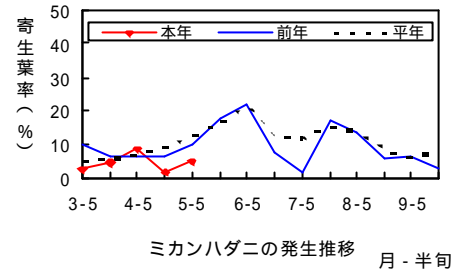
(2) 予報の根拠

ア 5月5日半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少ない(-)。

寄生葉率 5.0%(平年 12.6%、前年 9.8%)

発生ほ場率 50.0%(平年 58.3%、前年 70.6%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年より多いとされている(±)。



(3) 防除上の注意

ア 高度精製マシン油乳剤は、高密度時には十分な効果が得られないので、発生密度が高くなる前に散布する。なお、落花期以降にデラン剤を散布した園地は使用しない。

イ 薬剤防除にあたっては、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。

ウ 同一系統薬剤の連用は、薬剤感受性の低下を来す可能性があるため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

4 なし黒星病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

(2) 予報の根拠

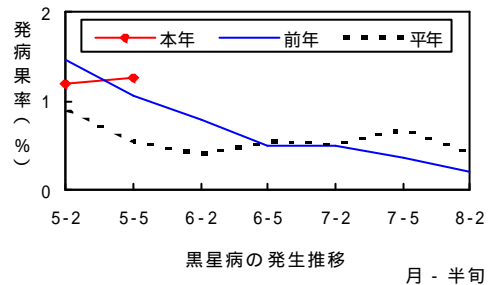
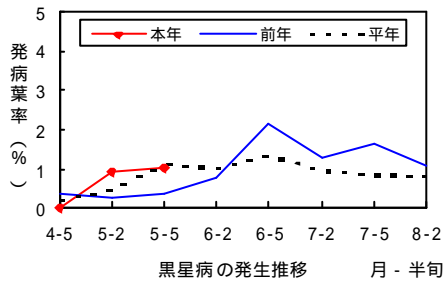
ア 5月5日半旬調査の結果、発生量は平年よりやや多い(+)

発病葉率 1.0%(平年 1.1%、前年 0.4%)

発生ほ場率(発病葉) 66.7%(平年 39.2%、前年 35.7%)

発病果率 1.3%(平年 0.5%、前年 1.1%)

発生ほ場率(発病果) 46.7%(平年 20.6%、前年 35.7%)



イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年より多いとされている(+)

(3) 防除上の注意

ア 罹病葉や罹病果実は伝染源となるので、見つけ次第除去し、園外に持ち出し処分する。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



## 5 ぶどうべと病

### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

### (2) 予報の根拠

ア 5月5日半旬調査の結果、発生を認めていない(±)。

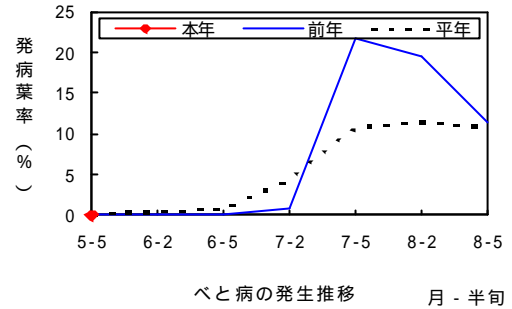
発病葉率 0%(平年 0.0%、前年 0%)

発生ほ場率 0%(平年 8.9%、前年 0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年より多いとされている(+)

### (3) 防除上の注意

罹病葉は伝染源となるので除去し、園外に持ち出し処分する。



## 6 ぶどう黒とう病

### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

### (2) 予報の根拠

ア 5月5日半旬調査の結果、発生量は平年並である(±)。

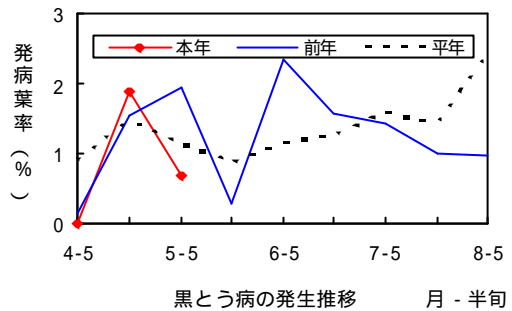
発病葉率 0.7%(平年 1.2%、前年 1.9%)

発生ほ場率 46.2%(平年 24.7%、前年 23.1%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年より多いとされている(+)

### (3) 防除上の注意

罹病葉及び罹病新梢は伝染源となるので除去し、園外に持ち出し処分する。



## 7 かき炭そ病

### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

### (2) 予報の根拠

ア 5月5日半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少ない(-)。

発病枝率 0.1%(平年 0.7%、前年 0.2%)

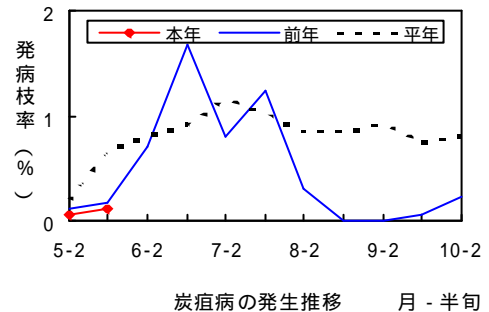
発生ほ場率 13.3%(平年 23.1%、前年 11.8%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年より多いとされている(+)

### (3) 防除上の注意

ア 罹病枝及び罹病果は伝染源となるので除去し、園外に持ち出し処分する。

イ 罹病枝の多い園では、降雨後の薬剤防除を徹底する。



## 8 かきのフジコナカイガラムシ

### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

### (2) 予報の根拠

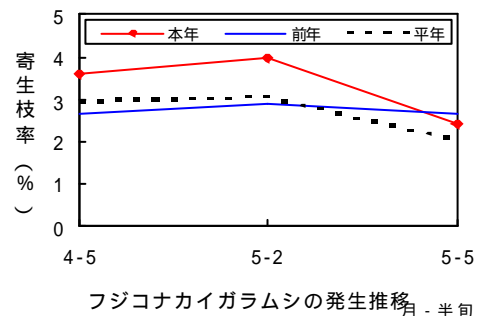
ア 5月5日半旬調査の結果、発生量は平年並で、発生ほ場率は高い(±)。

寄生枝率 2.4%(平年 2.1%、前年 2.6%)

発生ほ場率 80.0%(平年 46.1%、前年 64.7%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年より多いと予想されている(±)。

### (3) 防除上の注意



- ア 第1世代幼虫出現期の防除が最も効果が高いことから、平坦地では6月1日頃とその約10日後、山間地では6月7～8日頃とその10日後の2回の防除を徹底する。
- イ 本虫は、薬剤がかかり難い場所に多く寄生するので、散布むらのないよう丁寧に防除する。
- ウ 薬剤散布にあたっては、なるべく天敵類に影響の少ない薬剤を選択する。

## 9 いちじくのアザミウマ類

### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

### (2) 予報の根拠

ア 5月5半旬までの誘殺虫数は平年並である(±)。

(調査地点：行橋市西泉)

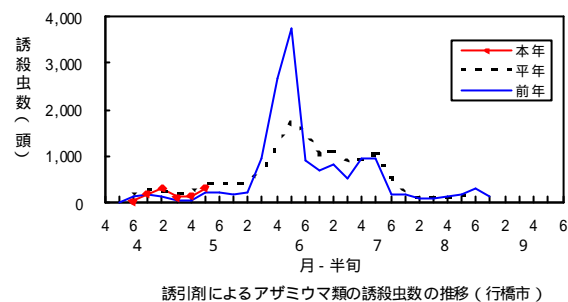
1,064頭(平年 1,473頭、前年 655頭)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年より多いとされている(±)。

### (3) 防除上の注意

ア 園地周辺の6～8月に開花する植物でも増殖するので、畦畔等の除草に努める。

イ 6月頃より定期的に防除を行う。



誘引剤によるアザミウマ類の誘殺虫数の推移(行橋市)

## 10 果樹共通のカメムシ類

### (1) 予報の内容

発生量：前年並

### (2) 予報の根拠

ア チャバネアオカメムシの1㎡当たり越冬量は、県平均で0.5頭(前年 1.1頭)と前年並である(±)。(越冬量の詳細は、平成20年2月22日付け「速報第6号」参照)

イ 5月5半旬までの予察灯への誘殺虫数は前年並である(±)。

(調査地点：本所管内筑紫野市)

チャバネアオカメムシ 344頭(前年 268頭)

ツヤアオカメムシ 399頭(前年 58頭)

(調査地点：筑後支所管内八女郡黒木町)

チャバネアオカメムシ 74頭(前年 118頭)

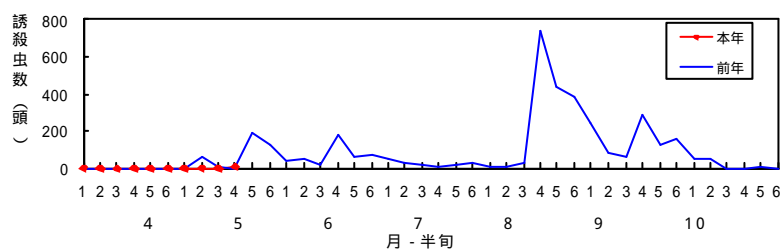
ツヤアオカメムシ 14頭(前年 4頭)

ウ 5月5半旬までのフェロモントラップへの誘殺虫数は前年並である(±)。

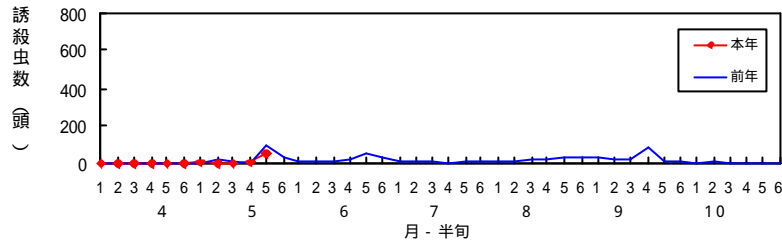
(調査地点：筑紫野市吉木)

チャバネアオカメムシ 837頭(前年 4,116頭)

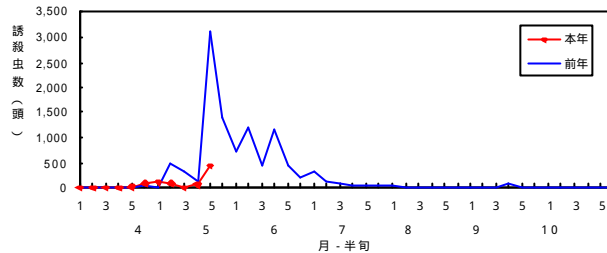
ツヤアオカメムシ 211頭(前年 232頭)



予察灯によるチャバネアオカメムシの誘殺虫数の推移(筑紫野市)



予察灯によるチャバネアオカメムシの誘殺虫数の推移 (黒木町)



集合フェロモントラップによるチャバネアオカメムシの誘殺虫数の推移 (筑紫野市)

エ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年より多いとされている(+ )。

(3) 防除上の注意

ア 気温が上昇すると活動が活発となるため、常発地では園内における本虫の発生状況の把握に努め、飛来を認めたら直ちに防除を行う。

【果樹・その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
かんきつ アブラムシ類	並	並	やや多	
なし アブラムシ類	並	並	並	・ハダニ類の防除は、薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
なし ハダニ類	少	やや少	やや少	
かき うどんこ病	並	並	並	
かき ハマキムシ類		並	並	



## 【茶】

### 1 炭疽病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

#### (2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年より少ない(-)。

発病葉数 0葉(平年 0.5葉、前年 0.0葉)

発生ほ場率 0%(前年 4.0%)

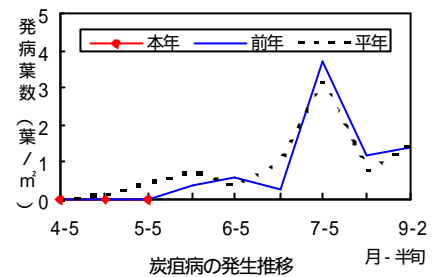
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年より多いとされている(+)

#### (3) 防除上の注意

ア 一番茶摘採後の残葉での発生に注意し、萌芽から1葉期までに防除を行う。

イ 雨滴により孢子が飛散伝搬するので、降雨前の薬剤防除の効果が高い。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



### 2 もち病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多

#### (2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年より少ない(-)。

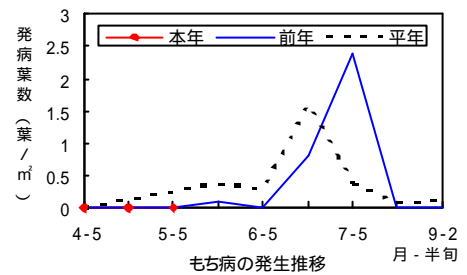
発病葉数 0葉(平年 0.3葉、前年 0葉)

発生ほ場率 0%(前年 0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年より多いとされている(+)

#### (3) 防除上の注意

一番茶摘採後の残葉での発生に注意し、萌芽から1葉期までに防除を行う。



### 3 カンザワハダニ

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少

#### (2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年より少ない(-)。

寄生葉率 1.1%(平年 6.2%、前年 6.7%)

50葉当たり虫数2.4頭(平年 20.6頭、前年 7.1頭)

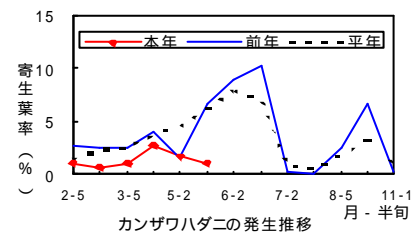
発生ほ場率 28.6%(前年 72.0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年より多いとされている(-)

#### (3) 防除上の注意

ア 発生状況をよく観察し、寄生葉率が2%以上である場合は防除を行う。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



#### 4 チャノコカクモンハマキ

##### (1) 予報の内容

発生時期：平年並、前年より遅

発生量：平年並、前年より少

##### (2) 予報の根拠

ア 越冬世代成虫の発蛾最盛期は、筑後市・八女市ともに平年並の4月6半旬頃である。

イ 5月5半旬までのフェロモントラップの誘殺虫数は平年よりやや少ない(-)。

調査地点：筑後市171頭(平年 377頭、前年 289頭)

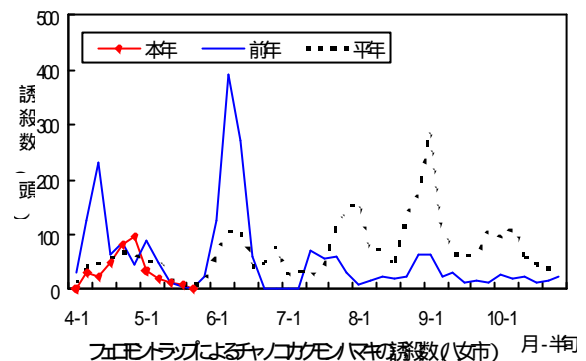
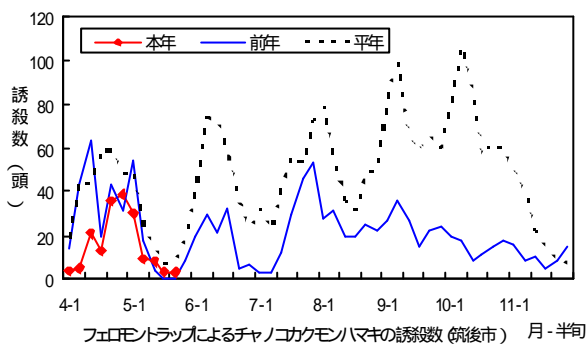
八女市360頭(平年 430頭、前年 741頭)

ウ 5月5半旬調査の結果、発生量は平年並である(±)。

被害葉数 0葉(平年 0.07葉、前年 0.13葉)

発生ほ場率 0%(前年 20.0%)

エ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年より多いとされている(±)。



##### (3) 防除上の注意

ア 第1世代成虫の発蛾最盛期は、6月中旬頃と予想されるので、ほ場での成虫の発生に注意し、成虫が最も多いときから7日後を目安に防除を行う。

イ 巻葉後は防除効果が劣るため、巻葉が見られたら直ちに防除を行う。

#### 5 チャノミドリヒメヨコバイ

##### (1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多、前年よりやや少

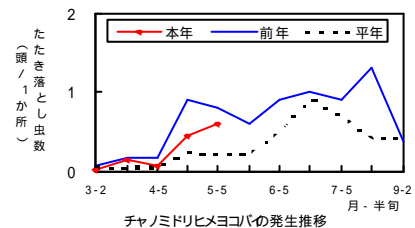
##### (2) 予報の根拠

ア 5月5半旬調査の結果、発生量は平年より多い(+)

たたき落とし虫数0.6頭(平年 0.2頭、前年 0.8頭)

発生ほ場率 57.1%(前年 52.0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年より多いとされている(±)。



##### (3) 防除上の注意

ア たたき落とし(A4版白紙上)で4頭以上発生している場合は防除を行う。

イ 二番茶の萌芽から開葉期を重点に防除する。

6 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量： 平年よりやや多、前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5 半月調査の結果、発生量は平年よりやや多い (+)。

たたき落とし虫数10.9頭(平年 6.3頭、前年 15.4頭)

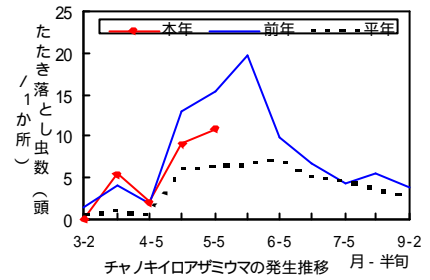
発生ほ場率 100%(前年 92.0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は平年より多いとされている(±)。

(3) 防除上の注意

ア たたき落とし(A4版白紙上)で10頭以上発生している場合は防除を行う。

イ 二番茶の萌芽から開葉期を重点に防除する。



【野菜】

1 アスパラガスのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量： 平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 5月5 半月調査の結果、発生量は平年並である(±)。

寄生株率 59.4%(平年 58.8%、前年 68.8%)

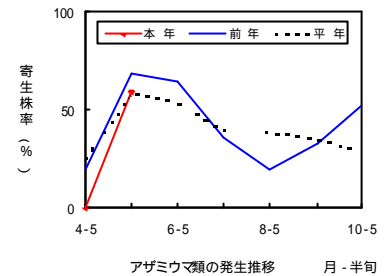
イ 向こう1か月の気象予報では、気温は高く、降水量は多いとされている(+)

(3) 防除上の注意

ア ほ場内やほ場周辺の除草を徹底する。

イ 本虫は、最初擬葉に発生するが微小昆虫であるため見つけにくい。このことから、白い紙等の上に払い落とし、発生量を推定する。

ウ 多発してからでは防除が困難になるので、初期防除を徹底する。



【野菜・その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
アスパラガス 斑点性病害	やや少	並	やや多	<ul style="list-style-type: none"> <li>本病は、ハウス内を蒸し込んだ後に発生しやすいので、換気を十分に行う。</li> <li>過繁茂にならないように摘葉を行い、ほ場内の通風をよくする。</li> <li>薬剤散布は日中を避け、夜間、葉に水滴が残らないよう早朝に行う。</li> </ul>
ハダニ類	並	並	並	
アブラムシ類	並	やや少	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>多発してからでは防除が困難になるので、初期防除を徹底する。</li> </ul>
鱗翅目	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>黄色蛍光灯は、点灯を開始する(6月~10月)</li> <li>4mm目合いの防虫ネットを設置し、成虫の侵入を防ぐ。</li> </ul>

## 6月～8月は「農薬安全使用運動」の実施期間です 農薬の適正使用、飛散防止対策の徹底を！

全ての農薬の残留基準が農作物毎に設定され基準値を超えた食品（農産物）は販売が禁止されます。

農薬の使用に当たっては、ラベルを確認し農薬の使用基準を厳守するとともに周辺に飛散（ドリフト）しないよう対策を講ずるとともに注意を払って下さい。

### 1 農薬適正使用の徹底

適用作物、使用量、濃度、使用時期、使用回数などラベルを確認し使用基準を遵守する。

噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

他作物が隣接している場合は、なるべく双方に登録がある農薬を使用する。

### 2 飛散防止対策の徹底

風、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

### 3 防除履歴の記帳

薬剤散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、散布月日、薬剤名、使用濃度、散布量等を正確に記帳する。

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について  
ホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jpjn.ne.jp/fukuoka>  
電子メール [kfok0301@sp.jpjn.ne.jp](mailto:kfok0301@sp.jpjn.ne.jp)